

新年度を迎えて

前年度は、和泉の里の運営・事業にご支援とご理解を賜りまして誠にありがとうございます。今年度も新しい職員(支援員2名、調理員1名、業務員1名)を迎え、気持ちを新たに主体的に取り組みが出来るよう人材の育成にも努め、清光会職員として活躍出来るように取り組むと考えています。

さて、令和7年度は、施設長より前年度同様の目標を掲げられました。昨年度との違いについては、等級制の中で自分がなすべき事を最大限に行うことが明記されています。①ご利用者、職員の「安全、安心」の担保、②社会から求められる施設に、③障がい者福祉の専門職としての専門性、倫理性の向上とした三つの柱があります。その柱の一つ一つには明確な果たすべき課題があり、各職員自身の等級に応じた果たすべき課題をしっかりと取り組んでいくことになります。

①について

「虐待が起きない環境づくり」「災害時における体制の整備」「安全な暮らしの提供」「協力医療機関との連携、感染症対応力の向上」など、各種委員会で、支援の現場における事故の内容、発生防止の取り組みなど、想定されるリスクを未然に防げるように組織的にマネジメントしていきたいと考えています。

②について

SDGsの取り組みを視野に入れ、「運営の持続性」と「地域共生社会の実現」を両立するため積極的に取り組む必要があります。「誰一人取り残さないこと」というSDGsの柱は持続すべき目標であり、当法人の理念とも共鳴するものと考えています。継続したSDGsの取り組みを推進し、今後残すべきことや、繋ぐべきことを考え、行動することで法人の理念でもある「地域社会に開かれた施設を目指し地域の期待する福祉サービスを提供する」の実現を目指します。今の時代、取り組まないことはリスクにさえなりうると考えています。地域共生社会を目指す上では、福祉とSDGsを同時に推進することが安心して暮らせる福祉のまちづくりに繋がるものと確信し、困った時にいつでも必要とされ地域になくてはならない存在としてチャレンジし続けていきます。

③について

令和7年度より人事評価システムが一部変更され、各職員が各等級に応じ職務を遂行し、専門職としての知識、技術の専門性と倫理性の維持、向上として努めます。特に今年度は各等級に応じた階層別研修のWEB研修の導入し、能力開発に取り組み、各職員の独自性・独創性を見だし組織に貢献出来るよう、新たな発想や提案及び行動を大切にしていきたいと考えています。

最後になりますが、令和7年度の目標を各職員自身の等級に応じた果たすべき課題をしっかりと取り組み、成長し続け魅力ある施設づくりを目指し、安心感のある支援実践と成果を糧としていながら、進化していく一年にしたいと考えています。

今年度も変わらぬご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

和泉の里 支援課長 山下祐輔



クラブ活動紹介 さをり教室



和泉の里ではクラブ活動で、毎月2回土曜日に「さをり教室」を開催しています。さをり講師の方に来園して頂き、織り方や、「縦糸」と呼ばれる生地を整経などについて教えて頂いています。ご利用者も各々、好きな色の糸や、丸めた糸を織り込んだりと自由に個性的なさをりを織られています。

支援員 岡田拓磨

新職員の紹介



4月から新館で勤務させてもらうことになりました植田拓実と申します。障がい者施設での勤務経験がなく、皆様方に教えてもらうが多いと思いますが、今までの経験を活かし、支援員として成長できるように頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

支援員 植田拓実



4月から支援員として本館で勤務させていただくことになりました。森口岳斗です。学生時代に精神保健福祉士を取得し、精神科病院とアルコール依存症の方の就Bの施設に1か月間実習に行かせていただきました。仕事に慣れ、業務を覚えるまでたくさんご迷惑をおかけするかもしれませんが、精一杯頑張りますので、ぜひご指導のほどよろしくお願いいたします。

支援員 森口岳斗



4月から厨房で勤務に就くことになりました、椿原由美です。小規模デイサービスで約6年、その後、飲食店で2年ほど調理に携わってきました。今回、初めて大きい施設で業務に就くので、覚えることも沢山ありご迷惑おかけすることも多々あると思いますが、ご利用者様に喜ばれる食事提供が出来るように頑張りますので、宜しくお願いいたします。

調理員 椿原由美



3月より勤務している、町ディオサです。直接、支援の現場には入りませんが、衣類や寝具などの洗濯や施設の清掃などを通して、間接的にご利用者の支援に関わられたらと思います。今後も宜しくお願いします。

用務員 町ディオサ

